



子供が学びをつくる 生活

生活科の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供

課題設定

身近な生活を自分との関わりで捉え、よりよい生活にむけて思いや願いを実現しようとする。

(1) 身近な生活における人々、社会及び自然などの対象が自分とどのように関わっているのか考えようとする。

- ① 具体的な活動や体験を通して対象と関わり、対象への気付きをもつ。
 - ・ 繰り返し対象と関わり、対象に対しての気付きをもつ。
 - ・ 気付いたことを友達と交流し、自分と友達の気付きを関連付ける。

(2) 身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分との関わりについて思いや願いをもち、関わり方についての見通しをもつ。

- ① 具体的な活動や体験を通して関連付けられた気付きをもとに、もっと知りたい、やってみたい、こうなりたい、という思いや願いを高める。
- ② どうしたら自分の思いや願いが実現できるかを考え、活動の見通しをもつ。
 - ・ 友達と気付きを伝え合い、思いや願いを実現していくための方法について考える。

課題追究

具体的な活動や体験で得た気付きを友達と伝え合ったり、自分や友達の活動について振り返ったりしながら、対象との関わりを捉え直していこうとする。

(1) 自分が気付いたことや疑問に思ったことを友達と伝え合い、気付きを関連付け、課題の解決(自分の思いや願いの達成)にむけ、今まで身に付けた課題の追究方法を選択する。

- ① 自力追究、グループ追究など追究方法を選択する
 - ・ 本や iPad での調査
 - ・ 自分のアイデアの実践
 - ・ ワークシートへの気付きの記入
 - ・ 他者(友達、先生、家族、ゲストティーチャーなど)との対話

(2) 自分や友達の活動を振り返り、課題解決のために必要な工夫を考え、これからの活動の見通しを立てる。

- ① 試行錯誤しながら課題解決にむけた見通しの修正を行う
 - ・ iPad などの動画や画像で今までの活動を振り返る
 - ・ ワークシートのポートフォリオ的活用⇒自己評価的活用
 - ・ 友達との気付きの伝え合い
 - ・ 気付きの伝え合いでより高まった気付きによるアイデアの実践

追究の過程で得た気付きを今までの学習で身に付けてきた表現方法の中から適切と思われる方法を選択して表現する。また、追究の過程でよりよいものと考えたことを実践したり、活動中での意欲や自信を表出したりしようとする。

(1) 気付きの表現方法を選択する

- ・ 絵や文による表現
- ・ 歌や劇化による表現
- ・ 言葉による表現
- ・ 演示・動作による表現

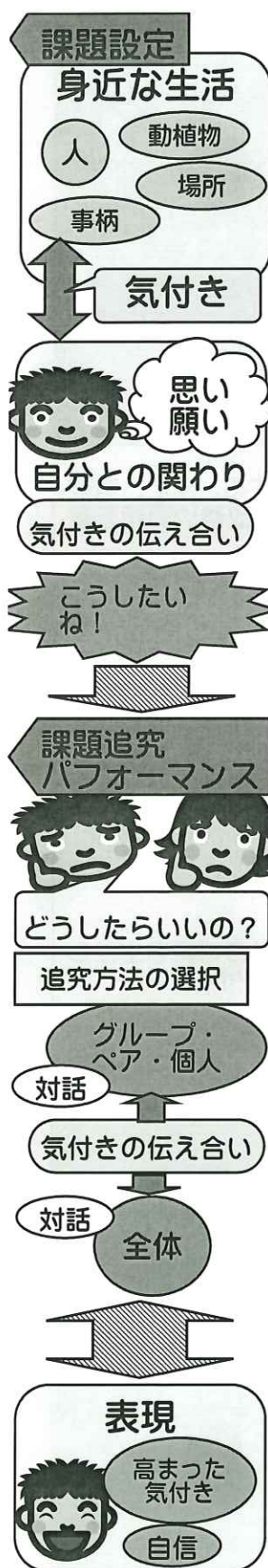
(2) 課題追究の中で気付いたことを表現し、表現したことによって得た気付きをもとにまた活動しようとする。

思考と表現の一体化

- ・ 絵や文による表現
- ・ 歌や劇化による表現
- ・ 言葉による表現
- ・ 演示・動作による表現
- ・ 作る
- ・ 試す
- ・ 対話する



～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



目指す姿を実現する支援例

【子供が対象と繰り返し関わることができるよう支援する】
 ・対象が子供にとってどんな価値をもっているのか分析する。

人である場合

- ・関わり方（話してほしいこと回数など）の事前打ち合わせ
- ・どんな人と関わるか

自然環境の場合

- ・1人につき一つ関わる
- ・持続可能である
- ・繰り返し関わる価値
- ・安全性

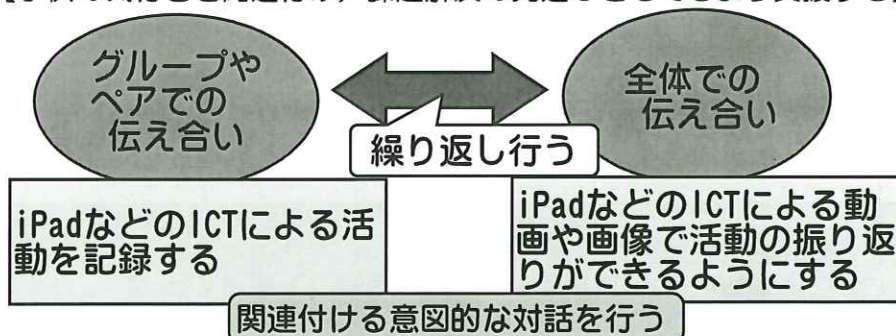
何に気付かせたいのか

【子供が対象との関わりについて思いや願いがもてるよう支援する】
 ・個の思いや願いを交流する場を設定する
 ⇒一人一人の思いや願いが関連付けられ、全体の思いや願いへと高まるよう、iPadや投影機などを活用して一人の気付きを視覚的に共有できるようにする。

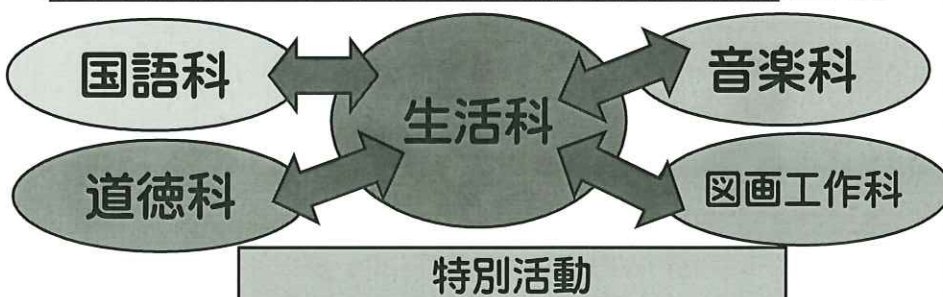
【子供が自分の課題追究方法を選択できるよう支援する】
 ・子供一人一人との対話を通して**即時的価値付け**を行い、追究方法を自分で選択できるよう促す。

【子供にとって必要感のある伝え合いの場を設定する】
 ・子供一人一人が課題解決への見通しをもつことができるような協働的な活動の場を意図的に設定し、知りたいことや解決したいこと、困っていること、うまくいっていることなど、個の気付きを伝え合うことができるようにする。⇒〇〇会議、〇〇相談会、〇〇研究所など

【子供の気付きを関連付け、課題解決の見通しをもてるよう支援する】



【子供が思考と表現を行き来できるように支援する】
 ・試行錯誤できる十分な時間と場を保障する。
 ・意欲や自信を表出できるよう、個に応じた価値付けを行う。
 ・他教科・領域との合科的関連的な指導を意図的に行う。
 ⇒カリキュラム・マネジメントによる意図的な単元構成をする。



生活科担当：酒谷明子